

▼「スポーツをテクノロジーする トップアスリートの記録を引き出した技術の力」訂正表（2018年11月12日、日経BP社）

本書の初版で以下の通り、肩書きの間違いや写真や図版で出典表記が記載されていない不備があり、原著者の方などにご迷惑をお掛けしました。お詫びして訂正します。

ページ	場所	元表記	修正後
▽はじめに			
p.6	本文後ろから3行目	～元明星大学教授の野崎忠信先生～	～明星大学名誉教授の野崎忠信先生～
▽第2章：“スタート”をテクノロジーする			
p.52	本文後ろから2行目	～野崎忠信先生～	～野崎忠信先生（明星大学名誉教授）～
p.53	図1 キャプション	～紙焼きを筆者が撮影。	～紙焼きを筆者が撮影。写真提供：野崎忠信明星大学名誉教授、野崎忠信「1964年東京オリンピック大会コレクションと資料」所収
p.61	図2 キャプション	～同内側が決勝審判員。	～同内側が決勝審判員。写真提供：野崎忠信明星大学名誉教授
p.63	図3 キャプション	画像提供：野崎忠信氏（明星大学元教授）	写真出所：陸連時報 第136号、1965年3月15日、野崎忠信「1964年東京オリンピック大会コレクションと資料」所収
p.71	図7 キャプション	～VTRのスイッチS3が閉じる。	～VTRのスイッチS3が閉じる。元図版出所：野崎忠信「陸上競技用スタート信号装置における開発の経緯について」図4（作図は横倉三郎明星大学教授）、明星大学研究紀要一人文学部一第24号、1988年3月20日、野崎忠信「退職記念講演資料」所収
p.73	図8 キャプション	黒丸はスターターが立つ位置。	黒丸はスターターが立つ位置。元図版出所：野崎忠信「陸上競技用スタート信号装置における開発の経緯について」図6、明星大学研究紀要一人文学部一第24号、1988年3月20日、野崎忠信「明星大学情報学部教授 退職記念講演資料」所収
p.74	図10 キャプション	～受ける力を検知する。	～受ける力を検知する。元図版出所：野崎忠信、横倉三郎ら「陸上競技における不正出発発見装置の問題点」図1（作図は横倉三郎明星大学教授）、明星大学研究紀要一情報学部一第1号、1993年3月25日、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第34号所収
p.76	表2 キャプション	～判定基準は0.120秒だった。	～判定基準は0.120秒だった。データ出所：野崎忠信「不正出発発見装置について」、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第26号、1988年10月20日
	図11 キャプション	～検知できなかつたりする（C）。	～検知できなかつたりする（C）。元図版出所：野崎忠信「改善された不正スタート発見装置」図1-a（作図は横倉三郎明星大学教授）、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第34号、1995年3月10日
p.78	図12 キャプション		元図版出所：横倉三郎、野崎忠信ら「陸上競技の不正出発を計測する」図8（作図は横倉三郎明星大学教授）、Japanese Journal of SPORTS SCIENCES 第15巻1号、1996年3月25日、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第37号所収

p.86	参考文献を追記		野崎忠信「1964年東京オリンピック大会コレクションと資料」 野崎忠信「明星大学情報学部教授 退職記念講演資料」 野崎忠信「不正出発発見装置について」、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第26号 野崎忠信「改善された不正スタート発見装置」、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第34号 野崎忠信「圧力値検出型装置と周波数検出型装置の反応時間比較」、全国陸上競技スターター研究会会報「よーいドン」第37号
▽第4章：テニステクノロジーの今昔			
p.139	図1 キャプション		写真：宇治橋貞幸・東京工業大学名誉教授
p.147	参考文献を追記		宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）
▽第5章：ゴルフボールとクラブのテクノロジー			
p.157	図2 キャプション	～揚力が生じる。	～揚力が生じる。元図出所：宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）
p.159	図3 キャプション	～渦が小さくなる。	～渦が小さくなる。元図出所：宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）
p.165	図4 キャプション		画像出所：Cochran, A.J.「Science, Equipment Development and Standards」、Science and Golf 1990年、カ石利生「ボールのあたりと飛び」図2、日本機械学会誌1992年11月号、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
▽第6章：陸上競技・投てき種目のテクノロジー			
p.189	図1 キャプション		元図出所：東昭「スポーツの中の流体力学」図3、日本機械学会誌1992年11月号、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
▽第7章：ヘルメットをテクノロジーする			
p.224	図5 キャプション		元図出所：製品安全協会資料、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
p.247	図27 キャプション		元図出所：製品安全協会「安全基準作成調査報告書（乗車用ヘルメットの安全性に関する調査）」、1999年、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
p.251	表2 キャプション		データ出所：宇治橋貞幸「衝撃を受けるヘルメットの頭部保護性能」表1、自動車研究、2000年7月、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
p.251	図28 キャプション		元図出所：Patrick, L.M.、Lissner, H.R.、Gurdjian, E.S.「Survival by design: head protection」、7th Stapp Car Crash Conference、1963年、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収

p.252	図29 キャプション	～最大になるように決める。	～最大になるように決める。数式出所：Gadd, C.W.「Criteria for injury potential」、Impact Acceleration Stress 977、141-145、1962年ならびに Versace, J.「A review of the severity index」、15th Stapp Car Crash Conference、1971年、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
p.253	表3 キャプション		データ出所：宇治橋貞幸「衝撃を受けるヘルメットの頭部保護性能」表3、自動車研究、2000年7月、宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）所収
p.263	参考文献を追記		宇治橋貞幸「スポーツ工学講義資料」（東京工業大学）

(ISBN978-4-8222-5877-1 第1版1刷)